「コミュニティ金融と地域通貨」第2章第3節

地域再生に向けたマレニーの取り組み

―地域内循環と地域内連携

衰退の道を辿っていたマレニーに1980年頃から転機が訪れる。

都会とは違ったライフスタイルを求めてやってきた若者たちによる、地域再生が始動した。

マレニーの人々の地域再生のポイントは身近なもの、地域に存在する資源を使って自分たちの理想とする町づくりに試みたということ。

→地域内で連携しながら、地域の資源を地域のために活用するという地域内循環のシステムの構築。

＊マレニーの地域内循環のシステムは二段構えで作られている

→資金や人や物という3つの資源のうち、地域の資金（貸付資本）を地域のために地域内で回し、循環させる機構として「マレニー・クレジットユニオン」の設立。

→人（労働力）やモノを地域のために地域内で回して循環させる機構として

「地域通貨制度（Local Energy Transfer System :LETS）」という地域内交換システムの設立。

1.マレニー・クレジットユニオン

―地域住民による地域のための金融機関の設立

○マレニー・クレジットユニオンの設立背景とその基本的性格

マレニーの地域づくりにおいて人々が求めたもの

→環境を保護しながら、健康によい安全なオーガニック食品を食べ、豊かな文化をつくり上げていくといった「持続可能な地域社会づくり」。

課題となったのが地域の人たちの「生活の糧」をいかに確保していくかという問題であり、マレニーの人々に暗い影を投げかけていたのは、地域内には産業や雇用がなく、人として安心して生きていく術がないということだった。

　当時、酪農業から遊離された人々の受け皿となっていたのは、地域の中の商店や飲食店などの第3次産業であった。しかし、第3次産業自体もきわめて零細な個人経営でしかなかった。酪農業の没落によって発生した余剰労働力の受け皿としては狭すぎた。

　マレニーの相当数の人は失業するか雇用されたとしても不安定なパートタイムが主流だった。若い世代も地域に職を見出せず。おおよそ地域の3分の2は職にありつけていなかった。

→雇用創出が必要

地域の中にまとまって働けるところがない状況では人々は自立しなければならない。そのためには小ビジネスを立ち上げる必要があるが大手銀行は預金をリゾート地の融資に回しており、マレニーの人々に融資してくれない。

→マレニー・クレジットユニオン設立の原動力

＊マレニー・クレジットユニオンの基本性格

・地域の中にある貨幣を地域の中にとどめおき、絶えず地域の中で回す

・一般の銀行のように高い利潤追求を計るわけではなく、地域の人たちの資金を地域の中に再投下し、融資の倫理性、社会性を重視しながら地域コミュニティの成長のために融資する

→上記の点が人々の支持を受け現在ではマレニー・クレジットユニオンの総預金量の半分が地域外の人々からの預金となっている

○マレニー・クレジットユニオンの業務内容とその効果

・マレニー・クレジットユニオンの総預金量は約1200万オーストラリアドル（約10億円）：図2-24

・マレニー・クレジットユニオンのお金の流れ：図2-25

＊マレニー・クレジットユニオンの特徴4点

①地域住民の経済的基盤確立のための融資

マレニーの人々が生活基盤を確立できるように小ビジネス立ち上げのための融資を無担保で行う。

元々マレニーの人々は担保となる資産をそれほど持っていない。しかしそれで融資をしないのであれば地域内に何も生まれることはないため担保を度外視して融資を行う。

地域全体がある人物に小ビジネスを立ち上げられるように融資という形で支援する。

↓

融資してもらった人はそれで儲けたお金をマレニー・クレジットユニオンに預金し、今度は他の人が自分と同じように小ビジネスを立ち上げられるように支援する。

功績：こうしたマレニー・クレジットユニオンの融資によって地域経済が活性化され、新しい雇用が生み出されている。1件当たりの平均的な創業資金としての融資額は、2000～3000オーストラリアドル。2000年度においては14の小ビジネスがマレニー・クレジットユニオンの融資によって立ち上げられたが、そのうち12のビジネスが軌道に乗っている。成功率は85パーセントでオーストラリアの平均的な成功率の20パーセントをはるかに凌いでいる。

なぜか？

小ビジネスの成功率の高さ、マレニー・クレジットユニオンの貸し倒れの低さには3つの理由がある。

・ビジネスアイディアを重視し、かつ経営のサポートを行っている。

→「リード（LEED：Local Economic & Enterprize Development）」の設立

ビジネスアイディアの精査、ビジネスが軌道に乗るまでの経営のサポートなどを行う。仕事の無い人が事業を立ち上げようとしても商工会議所は資産のあるものしか相手にしないため、住民の手づくりで設立された。サポート先からのサポート料で運営されている。

・小さく事業をスタートさせる→リスクも少なく軌道修正も容易

・マレニーという小さな地域に限定して融資を実行している。狭い地域なので地域内に住んでいる人は外部の人と異なり、貸出金利の支払いに窮したとしても元金の返済だけは行おうとする。

➁健康や環境の保全、福祉に携わる各種の協同組合への融資

マレニーの人々が地域に求めているものは雇用だけでなく健康や環境や福祉などがある。そうしたこと

も達成していくために協同組織の事業体を設立するという方法をとっている。

↓

こうした地域の人々の欲求に基づいて立ち上げられている各種の協同組合に対してもマレニー・クレジットユニオンは融資している。

各種の協同組合は地域の人々の基本的な欲求に関わるものから順に設立され、次いでそれ以外の欲求に関わるものが設立された。

＜基本的欲求に関わるもの＞

自然食品に関する協同組織　メイプル・ストリート・コープ、マレニー・コーポラティブ・クラブ

土地や環境保護に関する協同組織

クリスタル・ウォーターズ、バラング・ランドケア、ウェイストバスターズ

＜その他の欲求に関わるもの＞

文化に関する協同組織　Black Possum

教育に関する協同組織　Community Leaning Center

③利益の地域コミュニティへの還元

マレニー・クレジットユニオンが業務によって獲得した利益の一部（10％）はコミュニティに寄付され、地域のために使われている。これによって、市民プールの建設、学校設備の充実や事故・火事や災害を受けた人々を助けるための基金が作られている。

④住民意思によるマレニー・クレジットユニオンの運営

・運営は地域住民の意思に基づいて運営される。すべての組合員が意思決定機関である総会への参加資格を有し、1人1票制において投票権が与えられている。

・メンバーにアンケートを実施し運営の改善をしている

2.マレニー地域通貨制度

❶なぜ地域通貨が必要とされたのか

マレニーに地域通貨制度は、マレニー・クレジットユニオンの創設後の1987年にマレニー・クレジットユニオンを補う形で設立された。女性や高齢者曰く「自分たちは地域通貨のお陰で生きてこられた」というほど地域通貨の存在意義は大きい。

・メイントピック：貨幣の本質とその弊害

一般的な通貨がある中で地域通貨が必要だった理由

↓

貨幣制度がその内部に含んでいる問題点と関連している

「貨幣とは価値尺度、流通手段、価値保蔵手段の機能を営むものである」という定義が経済学においては一般的になされているが、筆者によるとこれらの特徴は貨幣が商品流通の中で身にまとう一時的な姿（貨幣の諸機能）に過ぎない。

では貨幣の本質とは何か？

↓

貨幣とは商品生産社会における私的労働の社会的性格を表すものに他ならない。簡単に言えば、社会が必要としている需要を満たすためにその人が労働したということを証明する印に他ならない。

貨幣の持つ「何でも買える」という力は上記のように貨幣の本質が労働の証明という意味を持つため、ある人が社会のために労働したことから生じる力であると筆者は主張する。

また、貨幣そのものに「貴重さ」があるというよりは、むしろ人々が行った社会的行動にこそ「貴重さ」があるのであると述べている。

＊貨幣の本質を労働の証明としてみた場合における貨幣の諸機能の意味

価値尺度：その商品生産にどれだけの社会的労働をその人が行ったかを貨幣量という形で事前に表示す

　　　　　るという役割を果たす。

流通手段：商品の売り手にはその人（労働者）が社会のために労働したことを証明する印を与える役割を、商品の買い手には社会の総生産物のうちから自分の必要とするモノを手に入れさせるという役割を果たす。

価値保蔵手段：自分の欲するものを取得するという権利を将来のために留保するという役割を果たす。

このように貨幣制度とは個々人が社会のために労働をした結果として初めて社会の総生産物の中から自分の必要としているものを受けとることが許される制度である。社会のために労働するということ、社会的な役割を果たすということが生きていくうえでは必要である。

↓

しかし逆に言うと、貨幣制度においては労働の社会的役割を失った人は、社会のために労働していない以上、自分が生活していくために必要なモノを社会から受け取ることが出来ず、生きていくことが困難になる。健康上の理由、雇用機会の喪失という理由などでどうしても働くことが困難であるという人などがそれに該当する。

ではそうなったときに地域社会の中でそのような人々を助けられるか？

→貨幣とは、個々人の私的労働、即ち個々人の孤立を前提にしている。したがって貨幣は、その歴史をたどると明らかなように、地域の共同的な性格を破壊しながら流通範囲を広げ、そのことによって「どこの地域でも通用する」という性格を身に着けてきた。

上記の貨幣の有する性格から困窮する人々を地域社会で救うことは難しい。

また、マレニー・クレジットユニオンではビジネスアイディアを持っていない人はその救いの手からどうしても抜け落ちてしまう。

↓

マレニー・クレジットユニオンで救えなかった人々を救うために、かつ前述の貨幣の問題点に対処するために地域通貨制度の導入が必要とされた。

❷マレニーの地域通貨制度の基本的な仕組み

マレニーの地域通貨制度には全体で1200人ほどが参加している。

その仕組みはシンプルで、地域の個々人が「自分が他人に提供できるモノやサービス」などを自由にリストアップし、自分が他人に提供できるモノ、あるいは他人から提供してほしいモノを地域通貨を媒介として地域の人々が交換し合うというもの。

・マレニーLETS「バニア（Bunya）」

・各種の協同組合の商店などでの購入に用いることが可能

・１バニア＝１オーストラリアドルというのが目安

※この目安は必ずしも一元的というわけではなく、個人間の労働の交換において用いられる際には、労働の質に関係なく、単純に労働時間に基づいて当事者間で交換関係が決定される場合がある。

・紙幣方式ではなく口座方式

・口座の残高がいくらマイナスになってもかまわない

❸マレニーの地域通貨制度の役割

1.労働機会の提供

低所得者層を形成する人たちに労働の機会、所得の獲得機会を提供している。

働く能力はあるが様々な理由で労働の機会が制約されている場合が多い。

Ex)マレニーは観光化の流れに立ち遅れた地域であったので、オーストラリアの女性の一般的な傾向としての就労先である小売業、ホテル、レストランなどが少なく、女性労働力を吸収することが出来なかった。そのことにより特に女性は不利な立場に置かれていた。

しかし、地域通貨制度の導入により、誰でも労働の相互提供が可能になった。

Ex）

・地域内で生じる労働に対する需要を地域内の人に流す

・比較的所得の安定している人々から低所得層への労働機会の提供

・低所得者間での労働機会の提供

2.社会福祉

病気、高齢などの理由で働くことがそもそも困難な場合、自己の労働能力を発揮することに制限が伴うが、地域通貨はこうした人たちにも生活の術を与えている。

マレニーの地域通貨制度では口座残高を気にせずにいくらでも地域通貨を振り出すことが可能であり、また返済の義務もないので他人の助けを必要としている人は地域通貨を使って自分の必要な分のサービスを必要な分だけ受け取ることが出来る。

↓

従来の貨幣制度と異なり、健康上の理由などで働けない人々が必要とするものを地域全体から支給し、彼らを地域全体で支えるという仕組みである。

3.「人としての尊厳」の回復～社会的役割の保障

貨幣を獲得する機会を失ったり、十分に得られなかったりすると、人は無意識のうちに「自分にはあまり価値がない」と感じるようになり、人としての尊厳まで失ってしまうことがある。

なぜか？

→これらのことは貨幣の本質に関連している。

貨幣とは社会のために労働したということを証明する印であり、またそれによってはじめて自分が社会から必要とするものを受け取ることが許される。それゆえに、貨幣を得る機会をなくすと、人は自分が社会にとってあまり必要ではない人間、価値のない人間だと思い込むことになる。「貨幣を多く持っている人間が価値ある人間であり、そうでない人間は価値がない」というように。

↓

地域通貨はこうして失われてしまった「人としての尊厳」を取り戻す働きも果たしている。

地域通貨制度を介して労働したということは、マレニー社会にとって自分が必要な人間であることを認識させてくれる。

マレニーでは年齢、性別、身体的特徴に関係なく、すべての人が「価値」ある技術や能力を持っているということを基本にして、地域通貨制度を介して地域社会が地域の人々に対して労働の社会的な役割を保障している。

→人は生きていくうえで、また「人としての尊厳」を持つうえでは、社会的分業の中で役割分担、社会的役割が与えられるということが何よりも必要である

「人としての尊厳」を大切にしている点が、マレニーの地域通貨制度において注目されるべき点である。この結果、マレニーでは地域通貨制度を通じて、自分が暮らす地域社会で自分の存在価値が認められることで自ら進んで地域づくりのために参加するという人も出てきているし、世代を超えた交流も進んでいる。

以上のようにマレニーではマレニー・クレジットユニオンとマレニーLETSを中核とする地域内循環、地域内連携によって地域の自立を確立し、地域再生を試みている。

＜感想＞

貨幣の本質を労働の証明と捉えており、それ故に購買する権利があるととらえているのが面白いと思った。マレニー・クレジットユニオンは実質政府財政における公共支出と同じようなものではないかと考えた。地方財政を細分化してよりローカルなコミュニティ金融を行うことに地域発展の可能性を感じた。

参考文献：「コミュニティ金融と地域通貨」佐藤俊幸著　新評論